2014 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント（ＴＡ）・リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ　点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	東松山再開発事業第 1 期工事にともない 10 号館が建設され、本研究科の実験・演習室の床面積及び機能性が大きく改善された。しかしながら、大学院設置時に配備される必要性の高い設備が十分とは言えず、教育研究等を支援する環境や条件が適切とは言えない。博士後期課程がないため、ティーチング・アシスタント（ＴＡ）は望めないが、リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用して教育研究支援体制を強化する必要がある。 本研究科ではこれまで、脳研究の最前線で活躍する医学部教授を招聘して「脳内における食欲調節研究の最前線」というシンポジウムを開催し、元学会誌編集委員長を招聘して「体力医学研究の倫理と法」というセミナーも行った。また、学部と合同ではあるが、元最高裁判事を招聘して「法と医学研究倫理」に関する研究会を開催した。しかし、回数が少なく、今後の課題として残る。本研究科独自の学術雑誌は刊行されていない。しかし、年度末には「スポーツ・健康科学研究科年報」が刊行され、教員の研究活動報告、修士論文概要、大学院生の学会発表抄録などが掲載されている。
7-6	研究科委員会の中に施設委員会があり、予算要求時期に大学院担当教員の要望などを調査している。しかし、教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行う責任主体・組織、権限、手続きは明確にされていない。

【効果が上がっている事項】

7-4	
7-6	

【改善すべき事項】

7-4	リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用して教育研究支援体制を強化する。
7-6	教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行う責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「スポーツ・健康科学研究科年報」

《指標データ》

なし

Ⅲ【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	7-4 リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用して教育研究支援体制を強化する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					
	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行う責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					
14 年度目標	7-4 リサーチ・アシスタント（ＲＡ）・技術スタッフなどを雇用に関して、大学執行部、大学院事務室と検討を開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→	B				
	7-6 本研究科委員会および本研究科	検討結果が研究科委員会議事録に記録さ	→	B				

	内の自己点検評価委員会において、研究会、セミナー、シンポジュウム等の開催および学術雑誌の刊行状況に関する検討を開始する。	れるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。				